

郷地・東町かわらばん

〈発行責任者〉 郷地東町連合自治会会長 志村和亮
〈作成〉 総務広報部：角田三郎・井上直矢・宮崎文男・木村悦雄・藤尾 敦・柿澤 修・中島岩雄・清水和子

多摩川危険箇所点検を実施

多摩川の危険箇所点検が、7月17日（日）に実施されました。今年も、私たちの担当する地域の班員として、当連合が所属する郷地支部から5人、宮沢支部から4人、大神支部から3人、昭島警察生活安全課から2人、防犯協会から5人、計19人が参加。多摩川郷地水門前～東京木工所までの間で、危険区域やマムシ注意など、注意を呼び掛けるために設置した看板を点検し、周囲の草の刈り取り作業などを行ないました。取り替えた看板は33本でした。（志村和亮）



分館 ⑥防災備蓄品倉庫として利用されます。新施設の利用開始は令和7年からですが、



完成予想図

現在、基本構想や基本計画段階で、市民の意見や提案を都度募集しています。『広報あきしま』に案内が掲載されますので是非応募してみてください。（中島岩雄）

「昭和公園 D51のメンテナンス作業をする会」が発足

令和3年初期に改修工事が終わり、同年8月から公開され、綺麗によみがえった昭和公園のD51機関車が、近くで見学できるようになり、多くの人々が訪れています。しかし、このまま放置すれば再び元のように感じてしまうと感じた近隣住民や市民の方々が発起して、この機関車の『メンテナンス作業をする会』を立ち上げました。そしてこの会は、自治会、自治会連合会、武蔵野鉄道文化遺産保存会、昭和公園ラジオ体操会の役員が市役所にボランティア活動申請をして、公式に認められました。現在会員は14人（女性2人）で、高齢者が中心ですが、毎月1回（第2水曜日の午前中）の清掃活動を頑張っています。（D51のメンテナンス作業をする会代表 原 茂）



市民交流センターのリニューアル計画

近年、地域コミュニティ活動（会議、研修会、説明会等）に利用されてきた、玉川町4丁目にある昭島市の『市民交流センター（写真右）』が、築50年経ち、建屋や設備の老朽化が進み維持が難しくなったこと、安全面で不安な点があること等から、リニューアルすることになりました。建て替え後は主に①市民交流拠点 ②市役所東部出張所 ③東部地域包括支援センター ④商工会・勤労市民共済会 ⑤図書館



連合自治会長のつぶやき

今年の夏は、日本各地で気温上昇記録が更新されました。関東でも35℃以上の猛暑日数が過去の記録を大幅に更新し、40℃を超える所も出て、今年から新たに酷暑日（40℃以上）も設定されました。同時に7月後半からは新型コロナウイルス感染者が過去にない勢いで急増し、東京都では4万人を、昭島市でも8月に400人を超える日があり、これもまた記録を更新しました。以前でしたら、国からまん延防止・緊急事態宣言が発令され、色々な規制をして感染者を減らす対策が取られてきましたが、今回は、これ以上の規制は経済活動の大きな障害になるとのことで、国とし



での規制はありませんでした。新型コロナウイルスのオミクロン株は感染力も強く、規制対策もないために急増したかと私なりに感じます。しかし、もう3年もコロナと共存している私たち自身、既にコロナ対策は十分熟知しているはず。不要不急の外出は避け、人混みには出ない、出かける時はマスク着用、手指消毒、十分な換気等々、これからは自分自身で身を守ることを実践して下さい。また、気象異変に対する対策も同様です。天気予報をよく見て、暑い時は熱中症の対策をとり、台風や大雨の時は、事前に避難所非常持ち出し用品の確認をしておきましょう。被害にあってから「ああしておけば良かった…」と、後悔する前に。（志村和亮）